

コロナ禍におけるご近所福祉 三密避けても、気持ちのつながりは濃厚に

令和2年12月6日(日)
老人福祉センターフイラ
ンソ土山において、「土
山地域田舎の地域づくり
セミナー」を開催しまし



↑ コロナ禍だからこそ「つながり」の大切さを確認した
土山地域田舎の地域づくりセミナーの様子

た。(土山町民生委員見
童委員協議会、土山町福
祉推進員連絡協議会との
共催)当日は、民生委員
児童委員、福祉推進員、

ご近所福祉に関心のある
方々など35名のご参加を
いただきました。
新型コロナウイルス感
染症拡大での緊急事態宣
言により人との関わりが
困難になり、ご近所福祉
活動においても影響が大
きくあったため、テーマ
を「コロナ禍におけるご
近所福祉」とした基調講
演や実践報告を行いました。
ご参加いただいた方に
はコロナ禍のご近所福
祉について考察してい
たとき、会場にいる全員で
この非常事態のご近所
福祉について考えました。
セミナーの前半では、
甲賀市社会福祉協議会地
域福祉課 大倉課長より
「コロナ禍のご近所福
祉」と題して、講義いた
だきました。コロナ禍に
おけるご近所福祉に関わ
るキーワードとして、
「新しい生活様式」・
「これまでの活動の振り
返り」・「今、新しい生
活様式で地域福祉活動に
何が求められているのか」・
「ご近所福祉活動ミニナ
コロナ」を挙げられまし
た。詳しくは、中面をご
覧ください。

広報

土山がニコリ



土山地域
ご近所福祉推進
協議会 第3号
令和3年3月発行

第2回 土山地域防災講習会 ～日頃のつながりが命を守る～

2020年10月29日
土山開発センターにて



はじめに「災害に備え
た地域の役割」と題し、

防災士中島仁史氏からの
講演があり、災害に備え
地域の対応がいろいろ求
められているが、地域が
一体となった取り組み体制
が大切であると話されま
した。続いて甲賀市危機
管理課の指導のもとコロ
ナ禍での避難所運営のひ
とつであるシエルトアと
簡易ベッド組立訓練を実
施しました。最後はグルー
プで意見交換がなされ、
区長から「地域に避難情
報が出ていなくても避難
されない。自分事にして
ほしい」「災害時の区長
の役割を改めて知った。
防災活動のマンネリ化を
改善したい」など
災害への強い
危機意識を持つ
た意見が出まし
た。
災害は、いつ
なんどき起こる
かわかりません。
日頃から地域の
つながりを大切
にし、地域での
災害に備えた取
組みが一層推進
されることが望
まれます。
→災害時に備え
たシエルトア組
立て訓練の様子

サロンスタッフ 研修会

2020年10月24日
フイランソ土山にて

新型コロナウイルス感
染症予防のため、関係者
との調整と予防を徹底し
開催しました。
最初に甲賀市社会福祉
協議会より「福祉推進員
の役割とコロナ禍でのサ
ロン活動」について説明
がありました。
「福祉推進員の役割は、
誰もが普通に暮らせるよ
うに見守り、支え合いの
お手伝いをするることであ
り、そのためにサロンへ
の協力や地域の困りごと
を民生委員や区長と相談
することなどから始めて
いきたいと思います。大変な役
割ですが、みんながお互
いに支え合う一人だと思っ
て、気楽にやってみよう
しよう。何事も一歩前に
進むことが大切です」と
話されました。



↑ 豊壽園さんから棒・タオル体操の実技指導

続いて甲賀シルバーク
ア豊壽園の指導員倉田美
幸氏に「家でもサロンで
も使える棒・タオル体操」
の実演指導をしていただ
きました。
土山町は少子高齢化が
進み、以前より施設が増
えたことはありがたいの
ですが、まずは、自分自
身の健康を守ることが一
番です。そのため自分で
動ける筋力の維持は大変
重要です。手軽に家庭で
もできる棒やタオル体操
は筋力を鍛えたり、体力、
免疫力の向上、生活習慣
病や認知症の予防にもつ
ながります。このような



↑ 市社協よりサロンで使えるゲームを指導

タオル体操も百歳体操も
気軽にできるため、サロ
ンでの継続的な取り組み
に期待します。
最後に甲賀市社会福祉
協議会よりサロンで使え
るゲームの紹介がありま
した。サロンへの貸出は
無料ですので、ご活用く
ださい。
今回の研修では健康管
理の基本を教わりました。
研修を通じて、福祉推進
員、社会福祉協議会、豊
壽園の方々情報交換が
でき、今まで以上に相談
先、活動の輪が広がった
と思います。現状コロナ
禍ではありますが、感染
予防を第一に臨機応変な
対応でご近所福祉を進め
たいと思います。

セミナーを聞いてコロナ禍でのアイデア・工夫

こんな方法あったらいいね。地域のつながり合い(参加者の声から)

- 日頃の見守り、散歩などでつながりを持つ。
サロンやゲートボールなどお互いが見守っていける。
全て中止にするのではなく、対処をして実施できる
のではないかな。
- 集会所を日を決めて開放し、サロン以外でも気軽に
集まり顔を合わせるのもいいかなと思う。
- 今までの既成概念にとらわれず、状況に応じてでき
る限りの方法をとれば目的は達成するのだと思う。
・短時間での実施・頻度をまめにする、又は減らす。
・屋外での開催。
・簡単なイベントなしのお茶会でOK。
・大規模にせず小さな集団に分ける。
・地域の方たちが本当に望んでいることを聞いてみる。
- 感染対策をした上での小規模の集会は必要だと思う。
- ひきこもっている子どもたち、家を出たくない高齢
者に話せる人が声をかけ、孤立しないようにする必要
があると思う。
- 集う会が行えない中、健康推進員や福祉推進員、民
生委員の三役が3人1グループとなり、マスクをプレ
ゼントしたり、12月はエンディングノートとお菓子を
持って家庭訪問し、説明することでつながりを持つよ
うに考えている。
- 1~2カ月に1回、サロンに参加されていた方のお
家に訪問をするようにしている。

発行元 土山地域ご近所福祉推進協議会

メンバー 中島仁史 矢田賢一 坂本正幸 辻林修 吉田勇 水上ひろみ 電王真紀
田中彼子 関司直子 中村真 井上和美 大橋美耶 中村弘子

【お問い合わせ先】 甲賀市社会福祉協議会 土山地域福祉活動センター (大久保・重盛・岸)

Tel 0748-66-2001 Fax0748-66-2004 〒528-0211 甲賀市土山町北土山2058



田舎の「近所福祉セミナー」 コロナ禍での実践報告

子どもの居場所 「みんなで楽しむ会」



取り組みのきっかけは、民生委員児童委員と小学校との子どもたちの現状を語る会で「不登校の子どもがいる」などの実情がわかり、「子どもたちに下校後にほっとできる居場所」が必要だと思ったことでした。

昨年度は月1回の頻度で開催し、今年度も同様に月1回の開催を予定し



ていきましたが、新型コロナウイルス感染症対策により、半分の開催となりました。

開催を中止にしたことで全く子どもたちの状況がわからなくなり、また夏休みは何の楽しみもなく、さみしいという子どもたちからの声を受け、もたから声を受け、検温、マスク着用などの感染予防を徹底した上で、思い切って再開しました。

子どもたちは本当に喜んでくれました。

不登校だった子どもが、この居場所への参加などを通じて、他の子どもたちとつながり、学校へ通えるようになったことが成果です。

今後は、今参加している子



↑秋のハイキングの様子

どもたち以外にも、居場所が必要だと考えられる子どもたちが参加できるようにしていきたいと思いを話されました。

発表者 土山照美氏

山女原地区のご近所福祉

コロナ禍において、サロンや体操などを中止されている地区が多い中、山内学区山女原地区では、中止することなくこれまで通りの活動を続けておられます。その秘訣とは何かについて、これまでの地域のつながり、活動などを交えながら、報告いただきました。

発表者 北林津多子氏



詳しくは
こちら
二見

みんなが主役のサロンづくり 自律型高齢者サロン



に苦心する」「参加者が固定化している」など、サロンが抱える課題が見えてきました。そこで今年度の協議会では、地域に合った新しい「居場所」の立ち上げのお手伝いをさせていただきます。新しい居場所には、支える側・支えられる側「に分かれるのではなく、できることは自分たちで行い、参加者自身がサロンを開いていく、みんなが主役」の自律型サロンのイメージをしています。立ち上げについては、現在サロンがない北中区・南中区を中心に、空き家を活用して開催出来るよう準備を進めています。そこで、まずは地域で活動を行いながら定期的に集まっておられる「おじやみの会」の方と意見交換をしながら、

土山地域ご近所福祉推進協議会では、「地域の居場所づくり」を活動の一つとして位置づけ、取り組んできました。土山地域においても、たくさんの方々がサロンが開かれ、身近な「居場所」となっています。

昨年度、協議会で地域のサロンを回り聞き取りを行ったところ、「担い手がない」「プログラム



おじやみの会さんとの意見交換の様子

ご近所福祉活動 with コロナ

甲賀市社会福祉協議会 地域福祉課 大倉崇弘課長より

それとも、もうやめたいか？
手ごたえを共有して喜びあえたか？

- ①目的・主体（住民らしさ）
実践報告での取り組みは、誰もが主役となっていたということ。山女原の取り組みは、「自分で決めた・自分でしたいんだ」という願いから、取り組みにつながっていた。「子どもの居場所」の取り組みでは、「子どもたちの圧力」に負けて、大人が、子どもたちにうまくつかわれることでサロンが開催できている。
- ②地域協働
（一緒にする・困ったときの相談先）
誰か一人がするのはなく、みんながするからできることがあり、広がりがあつた。今回の報告を聞き、自分はこんなことがしたい、関わりたいという輪が広がってほしい。そうしたとき、地域市民センターや地域包括支援センター、社協などに相談してほしい。
- ③リスクマネジメント
どんな取り組みにもリスクはあるが、それを把握、理解、納得して行うことが大切である。「何か起こったらどうするんだ？」というリスクだけではなく、「しない」ことで、見過ごされてしまうというリスク（見守りがなくなる・認知症が進むなど）。しないことで「よい変化も起こらなくなる」というリスクの2つがある。他の人のことまでは知らないという可能性があり、それは防がないといけない。
- ④評価（本人や地域社会の変化・満足度）
子どもや高齢者、地域そのものの変化はあったか？満足度はどうか？ やってよかったか？

withコロナのご近所福祉の取り組みと、地域共生社会の実現は、みんなが権利と責任をもち参加することであり、一番大切なことは自分を律するという「自律」。

つまり、「自分たちで決めた規範に基づき、行動すること」で、本日発表のあった「居場所づくり」の取り組みは、誰かにやらされたり、自分たちの知らないところで勝手に決められたルールに従うのではなく、まさに「自律した居場所づくり」であったと思う。

これからも「自律した居場所づくりと地域共生社会づくり」を自信をもって進めていただきたいと思うし、社協や福祉の専門職・行政など、様々な立場から一緒に考えさせていただきたいと思う。

土山地域 4年間の振り返り

R2(2020)			R1(2019)			H30(2018)			H29(2017)		
3月	12月	10月	3月	12月	11月	2月	11月	7月			
◆ 広報紙「土山がニコリ」第3号を発行	◆ 「土山地域田舎の地域づくりセミナー」開催 (「フライラウン」土山)	◆ サロンスタッフ・福祉推進員研修会	◆ 広報紙「土山がニコリ」第2号を発行	◆ 「土山地域田舎の地域づくりフォーラム」開催 (あいの土山文化ホール)	◆ 「土山地域＆福祉事業所」課題解決ネットワーク研修会を開催 (「ふくしまんパワー」ねっとこうか)と共催)	◆ 暮らしの課題解決支援活動 ：各地区の「ふれあいサロン」活動を調査	◆ 暮らしの課題解決支援活動 ：テーマを「居場所」として設定	◆ 「土山地域田舎の地域づくりフォーラム」開催 (あいの土山文化ホール)	◆ 暮らしの課題解決支援活動 ：テーマを「居場所」として設定	◆ 毎月1回定例会を開催(毎年度)	◆ 「ご近所福祉でまちづくり」について課題の抽出・整理・検討 ：土山地域の社会資源を調査：地域別、対象者別福祉活動と課題の抽出

土山町全体の出生が、毎年30人余り、高齢者のみ世帯(30%)や独居高齢者世帯(15%)が増え、高齢化率が35%以上と少子高齢化が深刻になる現実(令和元年10月現在)。

公的なサービスも限界があるなか、地域に暮らす人たちがさまざまな課題を「我が事」として受け止めて、共に支え合う地域づくりを目指すため「土山地域ご近所福祉推進協議会」が平成29年度から活動を開始しました。

毎月の定例会では、甲賀市地域福祉活動計画と照らし合わせながら、土山町の地域福祉の課題をワークシヨツプ形式で検討したり、地域サロンに出向き、実際の声や様子を確認し、またフォーラムも開催しました。令和2年度からは4人の地域マネージャーもメンバーに加わり、立場を

超えた協働によって、地域の生活課題を共有し、共に解決方法について考える機会を持つたことは成果ですが、地域のみならず他機関のみなさんへの波及効果や連携にはまだまだ課題があります。

ご近所福祉は、一人ひとりの意識が大切で、今後も継続して、土山地域におけるご近所福祉を気軽に語り合える機会を作っていきます。